

令和元年6月16日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K00971

研究課題名(和文) 国連RCE(持続可能な発展教育の地域拠点)活性化の研究

研究課題名(英文) Research on UN RCE(Regional Center of Expertise on ESD) Activation

研究代表者

株丹 洋一 (Kabutan, Yoichi)

信州大学・人文学部・名誉教授

研究者番号：10115553

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：ユネスコスクールとRCE岡山の「ホールシティー・アプローチ」と旧RCEエスポーのESDを中核においた町づくりは、多くの住民をESDに参加させる優れたESDの方法であり、「岡山公民館環境教育プログラム」は、岡山市の多くの公民館で10年以上にわたって改良されながら実施され多くの一般市民をESDに参加させている優れた環境教育プログラムである。これらの取り組みは、現実に効果が立証されているため、持続可能な発展の実現推進に大いに寄与する高い可能性を有している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユネスコスクールとRCE岡山の「ホールシティー・アプローチ」と旧RCEエスポーのESDを中核においた町づくりは、多くの住民をESDに参加させる優れたESDの方法であり、「岡山公民館環境教育プログラム」は、岡山市の多くの公民館で10年以上にわたって改良実施され、多くの市民をESDに参加させている優れた環境教育プログラムである。世界中の多くの教育機関が、これらの効果が立証されている優れたESDの取り組みをもとにして、各々の教育環境に応じて最適化したESDの取り組みを開発して実施すれば、多数の市民がESD活動に参加し、持続可能な発展の実現推進に大いに寄与することができる。

研究成果の概要(英文)：UNESCO School, RCE Okayama's "whole city approach" and former RCE Espoo's town development with an emphasis on ESD are excellent ESD methods to get many residents involved in ESD. "The Okayama Public Hall Environmental Education Program" is an excellent environmental education program that has been implemented and improved for over 10 years in many public halls in Okayama City and has been causing many citizens to participate in ESD. If many educational institutions develop and implement ESD methods and programs based on these proven excellent ESD methods and program with appropriate modifications according to their educational environment, many citizens would be involved in ESD activities and they could greatly contribute to the realization of sustainable development.

研究分野：ESD

キーワード：RCE ESD

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者が本研究の申請を行った 2014 年 10 月時点において、地球環境問題はそれまでになく深刻さを増していた。地球環境問題を解決するために、最も重要かつ急を要するのは、環境技術革新の推進と並行して、世界中のできるだけ多くの人々が環境問題に対する意識を高め、環境行動を開始することであり、そのために、国連が中心になって世界中で進めている ESD=Education for Sustainable Development(持続可能な発展のための教育)を推進することであると考えられた。

(2) ESD は、1992 年、「国連環境開発会議(リオサミット)」でその重要性が世界的に認識されるようになり、同サミット後、そのあり方について検討が進められて、2002 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」後の第 57 回国連総会で、「ESD の 10 年」が採択され、ESD を広く世界の人々に浸透させることの必要と最新の科学による ESD に対する支援が重要であることが訴えられた。そして、2005 年から「ESD の 10 年」が世界における主導的環境活動として実施されていた。

(3) 国連大学は、ESD 推進のための重要な方策として RCE の設立を提唱し、2005 年以来、世界中で 117 地域、その内、日本では 6 地域が(2013 年 10 月時点において)RCE に認定され、世界を持続可能な社会に変革すべく活動していた。

(4) 研究代表者はそれまで、研究が非常に遅れていた大学の一般学生を対象とする環境教育の在り方を研究していたが、その過程で、国連が推進する ESD とその主要なツールである RCE の意義の重大さに気づき、RCE の研究を開始した。そして、RCE は世界から期待されている成果を挙げられないように思われた。

(5) RCE 研究に関しては、大部分が国連大学高等研究所(当時)を始めとする国連大学あるいはユネスコ等の国連職員の手になる報告あるいは論文が数点あるだけで、それまで RCE の研究はほとんど行われておらず、RCE の活性化は、当該時点において最も優先すべき研究課題であると考えられた。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、持続可能な社会を実現するための重要な方策として国連大学が設立した RCE がじゅうぶんな成果を挙げられないでいる現状に鑑み、その原因を解明して、RCE 活動を活性化させることにより、持続可能な社会の実現推進に寄与することである。

(2) そのために、まず、現行の RCE 制度および国内外の個々の RCE の現状を調査分析して、それぞれの優れた点と問題点・改善点を解明し、その研究成果をもとに、RCE 活動をより推進させる RCE 制度の改善プランおよび持続可能な社会の実現推進により寄与する RCE の改善プランを策定・公表して、完成度の高い RCE 制度と質の高い個々の RCE の実現を図る。

### 3. 研究の方法

(1) 国連大学サステナビリティ高等研究所を訪問し、担当職員へのインタビューと収集した各種資料から、現行の RCE 制度の優れた点と改善点を明らかにした。

(2) 世界的に評価の高い RCE 岡山を訪問し、同事務局の担当職員および RCE 岡山を構成する最も重要な組織のひとつである岡山市内の市立公民館の職員への聞き取り調査とそこで収集した資料を分析して、RCE 岡山の優れた点を明らかにした。

(3) RCE エスポーを訪問し、広報担当職員から、同 RCE における ESD 活動について聞き取り調査を行い、関連資料を収集し、同 RCE の優れた点を明らかにした。

(4) 上記の研究成果をもとに、持続可能な社会の実現推進に寄与する改善案を考案した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 現行の RCE 制度

RCE 制度は、直接的には、2005 年から 2014 年までの 10 年間実施された「ESD の 10 年(DES D)」の目標である持続可能な発展に向けたグローバルな学習の場の構築を地域レベルで実現し、地域の ESD 推進者間の革新的な連携・協力のための対話の場を設けるために、国連大学高等研究所(当時)を実施機関として設立され、2005 年から個別 RCE の認定が開始された。しかし、DES D は、1992 年に開始され現在も実施されている ESD の成果を高めるために設立されたものであり、ESD は、持続可能な社会を担う人材の育成を目的にしていることから、RCE は、最終的には、ESD が目的とする持続可能な発展の実現を目指すものである。

国連大学サステナビリティ高等研究所は、持続可能な発展に向けた学びの場を設けようとする地域を世界から募集し、応募された書類を審査して、必要な条件を充たす地域を RCE として認定している。RCE の核となる要素は、1. ガバナンス: RCE の管理とリーダーシップに関する事項に取り組むこと 2. 協働: 全てのレベルの公的、非公的な教育機関の活動の実施者が RCE の活動に参加することを促進すること 3. 研究開発: 研究の役割を明らかにし、RCE 活動に取り組んでいくとともに、共同活動(RCE 間での共同活動を含む)の戦略立案に貢献すること 4. 変革をもたらすような教育: 地域が目標とする持続可能な生活づくりのため、既存の教育と訓練システムの変革に貢献すること、の 4 点が挙げられているが、RCE として認定されるための絶対条件は、持続可能な発展の環境・経済・社会の側面を包括的に扱うことと、高等教育機関と学校がネットワークに加わることの 2 点のみである。国連大学サステナビリティ高等研究所がこの 2 要件を充足すると判定した地域を RCE として認定し、その後、毎年 1 回提出される年間活動報告書によって各 RCE の活動をチェックして、認定の更新を行っている。

国連大学サステナビリティ高等研究所が RCE として認定を求める地域に課している認定要件は、ひじょうに緩やかであり、その結果、2005 年以来 14 年間で RCE は 168(2019 年 4 月時点)にまでその数を増やし、現在では世界の 168 の地域において、持続可能な発展に向けた学びの場が設けられ、それらの地域内で ESD が実施されるようになった。このような認定要件と更新要件の緩やかさが現行の RCE 制度の大きな特徴であり、優れた点であると言える。

##### (2) 個々の RCE の活動

個々の RCE は、様々な ESD 活動を行っている。RCE ハンブルクでは、住宅建築について学ぼうとする市民に持続可能な住宅建設について教え、RCE オルデンブルク = ミュンスターラントでは、自動車運転免許を取得することが可能になった若者が初めて運転免許を取得する際に ESD の講習を実施している。RCE ニュルンベルクでは、外国から移入してきた住民に学習支援を行う際に ESD を教え、RCE クレタでは、大学生に授業として ESD を教えている。このように、どの RCE も地域内の住民に持続可能な発展に向けて学ぶ場を設けて ESD を実践しており、また、インターネットや直接対面会議によって、RCE 内あるいは RCE 相互の連携を図っている。

しかし、それらの活動にも関わらず、各 RCE の住民の大多数は現在でも RCE 活動に参

加しておらず、それどころか、RCE や ESD について聞いたこともないのが現実であり、個々の RCE において、どれだけの住民の ESD 意識を高め、ESD 活動へと変革を促したかという RCE の本来の目的達成の視点から考えれば、大多数の RCE の活動は、じゅうぶんな成果を挙げているとは言い難い。

多数の RCE の ESD 活動がじゅうぶんな成果を挙げられないでいる理由は、各 RCE が行っている ESD 活動の対象が、当該 RCE 住民の全員でも大多数でもなく、RCE 住民の一部に限られていることである。持続可能な住宅を建設しようとするのはその RCE 地域の住民の一部であろうし、持続可能な住宅建設を学ぶために当該 RCE を訪れるのはそのまた一部の住民であろう。また、当該 RCE 地域に移住した住民は当該 RCE 地域の住民の一部であろうし、学習するために RCE を訪れるのはそのまた一部の住民であろう。

持続可能な社会の実現を加速させるためには、各 RCE 地域内のできるだけ多くの住民が ESD 活動を実践するようにならなければならない。そのためには、各 RCE が ESD 活動の対象を地域住民の一部から、より多数の住民に、大多数の住民へと拡大しなければならない。そのために、各 RCE は、地域内のできるだけ多数の住民が参加できるように既存の ESD プログラムを設計し直し、あるいは新規の ESD プログラムを設計して実施し、国連大学は各 RCE がより多数の住民を参加させるプロジェクトを企画して実施するような RCE 制度を設計して実施することが望まれる。

現行の RCE 制度の認定要件と更新要件の緩やかさという優れた点が、同時に、現行の RCE 制度の改善すべき点になっていると言える。

### (3) 個別 RCE の優れた活動

大部分の RCE の活動対象が当該 RCE 地域内の住民の一部に限られているために、じゅうぶんな成果を挙げられないでいるのに対して、当該 RCE 地域内の多数の住民を ESD 活動に参加させることに成功して優れた成果を挙げている RCE が存在する。日本の RCE 岡山とフィンランドの RCE エスポー（現在は、拡大して RCE ヘルシンキ広域圏となっている。）である。

#### RCE 岡山

RCE 岡山は、国連大学サステイナビリティ高等研究所の優秀賞を何度も受賞しているだけでなく、2016 年には、日本で初めてユネスコから「ユネスコ/日本 ESD 賞」を受賞し、2017 年には、日本で初めて岡山市が「ユネスコ学習都市賞」を受賞しており、RCE 岡山を中心とする岡山市は今や世界の ESD をリードするトップランナーとなっている。

RCE 岡山がユネスコや国連大学サステイナビリティ高等研究所からひじょうに高い評価を受けているのは、多数の多様なステークホルダーを結集して同 RCE が「ホールシティー・アプローチ」と呼んでいる岡山市全体で ESD に取り組んでいる点にあり、若年世代を対象とするユネスコスクール加盟校における学校教育の ESD 活動と、一般市民を対象とする公民館における社会教育の ESD 活動の 2 本の柱を特色としている。

ユネスコスクールへの加盟校数は、2018 年時点で、世界中で約 11,500 校であるが、その内の約 1 割に当たる 1,116 校(2018 年 10 月時点)を日本の学校が占めており、1 国としては世界中で最多となっている。全国の小学校・中学校・高校を対象に、ユネスコスクールに加盟してもらい、ユネスコスクールとして、それぞれの学校において ESD 活動を実践するという方法は、世界的に見て、日本の ESD 活動の大きな特徴である。しかし、RCE 岡山ほど公民館における一般市民対象の ESD 活動を実施している RCE は他に例を見ない

と思われ、公民館における ESD 活動こそ、RCE 岡山の最大の特徴である。

岡山市立東公民館では、7 つある重点テーマのうちの「環境意識の高揚」の公民館主催講座として平成 22 年度より「スイッチ ON! えこらいふ」を開講している。岡山市立公民館の「環境意識の高揚」主催講座のなかには、年々受講生が減少したり、閉講に至ったものもある中で、東公民館の「スイッチ ON! えこらいふ」は、逆に受講者数を増やし、近年はコンスタントに多くの受講生を集めることに成功している。「まともに環境をうたう講座は、受講生が大幅に減少する」という事実直面して、公民館のスタッフが効果的な対策を講じたからである。具体的には、第 1 に、平成 23 年度から、市民と共に講座の企画会を開催し、当該講座の年間計画を立案することによって、社会と市民のニーズに沿った講座プログラムを編成することができるようになり、また、企画会のメンバーに紹介してもらい、各回のプログラムにふさわしい講師を選定することができるようになったことである。第 2 には、毎回のプログラムに講義、実習、話し合いなどの多様な学習方法を取り入れることにより、受講生が楽しく主体的に講座に取り組めるようになったことである。そして、第 3 には、平成 25 年度から、「環境学習エコツアー」をプログラムの一つとして加えたことである。「環境学習エコツアー」は平成 27 年度には定員を超える申し込みがあり、「地域からも期待される行事」となっており、「環境学習エコツアー」を加えることによって講座プログラムが全体として「難しい内容にならず、気軽に参加でき、エコライフを楽しむことができる講座」になって、「参加者が声を掛け合って新しい参加者を連れてきてくれる」「地域に定着している」講座になっている。

岡山市立岡南公民館でも、「環境意識の高揚」の公民館主催講座として平成 19 年度より「シンプル・エコ講座」(講座の名称は年度により異なることがある)を開講している。「シンプル・エコ講座」が多数の講座参加者を得られた理由としては、第 1 に、東公民館と同じように、受講生の中から、公民館職員を強力にサポートしてくれる「企画委員」を発掘し、育成して、講座を「企画委員」と共同で運営するように改善したことである。第 2 には、これも東公民館と同じく、講座プログラムの編成を「実技中心の楽しい内容」の回を多く設定するように改善したことが挙げられる。第 3 には、これも東公民館同様、「環境学習エコツアー」の実施が挙げられる。岡南公民館地域でも、「環境学習エコツアー」への参加を楽しみにしている人が少なくないようだ。そして、第 4 に、社会人だけでなく、ESD 活動を行っている高校生を講師に招いて、「草木染でマイエコバッグ」を作ること等の指導と実演を実施したことである。高校生の参加は、市民受講生の間に、「高校生ががんばっている姿を見ることだけでもうれしいという声が圧倒的」という大きな刺激となり、「シンプル・エコ講座」の大きな魅力となった。

一般市民を対象とする環境教育講座を長期間持続させ、さらに受講者を増加させることはたいへん難しいと考えられるが、東公民館と岡南公民館は、効果的な対策を講じることによって、その困難を克服し、事業を発展させることに成功している。その効果的な方策とは、1. 受講生との講座共同運営、2. 講義、実習、話し合いといった多様な学習方法を取り入れた楽しい講座プログラム編成、3. 「環境学習エコツアー」のような現地学習の導入、4. 高校生のような若者を講師として取り入れること、である。

岡山市の東公民館と岡南公民館が実施している環境教育プログラムから抽出した上記の 4 要件を充たす環境教育プログラム = 「岡山公民館環境教育プログラム」は、他 RCE や多くの教育機関でも実施することができる優れた環境教育プログラムである。「岡山公民館環境教育プログラム」は、環境教育以外の分野にも応用することが可能だろう。各 RCE や

教育機関が、「岡山公民館環境教育プログラム」をそれぞれのテーマとそれぞれの RCE や教育機関の状況に合うように改変しながら最適な教育プログラムを編成して実施すれば、世界中の多くの人達が ESD 活動に参加するようになり、持続可能な社会の実現推進に大いに寄与すると考えられる。

#### RCE エスポー（フィンランド）

エスポー市の場合、市長がリードして進める都市計画を実施するにあたって、住民の福祉を第一に考え、都市計画の最初の段階から、ESD を取り入れたことが大きな特徴である。2011 年から 2015 年までの活動によって、次のような成果が挙げられた。1．ESD のさまざまなイベントやキャンペーンに、23,000 人以上の市民が参加した。2．エスポー市は市の職員を対象に教育訓練を実施して、500 人以上のエコ・サポーターを育成した。3．初等教育から高等教育までのすべての教育機関において ESD が実施されている。4．すべての保育園と学校には ESD の実施計画があり、教育を受けた 1 人以上のエコ・サポーターが配置されている。5．大学では、多数の ESD プログラムが実施されている。

ほぼ 4 年間の実績として、目覚ましい成果である。RCE エスポーは、町づくりの最初の段階から ESD を取り入れて、地域全体で包括的に ESD に取り組み、大きな成果を挙げている数少ない事例である。

#### (4) まとめ

個々の RCE の優れた点は、国連大学が定めた認定要件と更新要件を充足する ESD 活動を実施して、地域内の住民を ESD 活動に参加させ、持続可能な発展の実現に寄与していることである。改善点は、活動の対象をより多数の住民に拡大し、より多数の住民を ESD 活動に参加させることである。RCE 制度の優れた点は、緩やかな認定要件と更新要件を設定することにより、多くの地域を RCE として ESD 活動に参加させることに成功していることであり、改善点は、個々の RCE が活動の対象をより多数の住民に拡大するような施策を実施して、持続可能な発展の早期実現を図ることである。

RCE 岡山の「ホールシティー・アプローチ」と RCE エスポーの ESD を中核においた町づくりと日本政府が進めているユネスコスクールを拠点にした ESD 推進は、多くの住民を ESD に参加させる優れた ESD の方法である。「岡山公民館環境教育プログラム」は、岡山市の多くの公民館で 10 年以上にわたって改良されながら実施され多数の一般市民を ESD に参加させている効果が立証されている貴重な環境教育プログラムである。

これらの優れた ESD の取り組みを、他の RCE や教育機関が各々の教育環境に応じて最適化した教育プログラムを開発して実施すれば、持続可能な社会の実現推進に大いに寄与すると考えられる。

#### <引用文献>

岡山市立東公民館、事業報告書(平成 27 年度重点分野)「スイッチ ON! えこらいふ」, 2016 年、他

P. Lappalainen & M. Markkula, Orchestrating Regional Innovation Ecosystems –Espoo Innovation Garden, Aalto University in cooperation with Laurea University of Applied Sciences and Built Environment Innovations RYM Ltd, 2015, 110-114

5．主な発表論文等

6．研究組織